

## 女性の下着を盗む一高校生男子の内的世界について

生 島 博 之 (愛知教育大学教育臨床総合センター)

### The innerworld of a male high school student stealing female underwear

Hiroyuki IKUSHIMA (Center for Clinical Practice in Education, Aichi University of Education)

**要約** 32回にわたり、近隣の家々の物干し竿などから女性の下着を盗んだ高校1年生男子Aに実施した心理療法(箱庭療法とカウンセリング)、および心理テスト(人物画、バウムテスト、TAT)の結果を報告し、下着盗みの心理的メカニズムを分析することにより、Aの内的世界について考察した。

**Keywords** : 下着盗, 箱庭療法, TAT

#### I. はじめに

32回にわたり女性の下着や服を盗んだ一高校生男子に実施したカウンセリングおよび箱庭療法の経過と、心理テスト(バウムテスト、人物画、TAT)の結果を報告し、問題行動の心理的メカニズムや心理治療のあり方について考察してみたい。

#### II. ケースの概要

- (1) クライアント Z工業高校1年生男子A
- (2) 主訴 女性の下着などを盗む  
女装傾向

##### (3) 家族構成

父親(45)は、生気を吸い取られたような感じの人で、ボソボソと小声で話す。気が小さい。工員。婿養子。母親(42)は、口やかましいが反面放任的な人である。農業兼パート(食品関係)。

A(16)は、女性的な感じのする背の高い男の子。

妹(11)は、背が高くてブスとした表情の勝気な女の子。小学校5年生。

##### (4) 生育史および問題史

Aは、父親29歳、母親26歳の時、在胎10か月、仮死分娩、3600gで長男として出生する。母乳を吸う力がなかったため人工ミルクで育てられる。8か月頃腸炎になるなど乳幼児期は身体が弱かったが、小学生になってからは健康そのものとなる。しかし、運動神経にはぶく、友達とはほとんどいなかった。

中1の頃から女性の下着に興味をもち始めたらしく、高1の時に事件が発覚するまでの約3年間に32回にわたり、近隣の家々の物干し竿などから、ブラジャー、スリッパ、女物カッターシャツ、スカート、パンツ、などを盗む。また、侵入した家に住んでいる

面識のない女子中学生に、「あなたを愛しています」等といった半分のラブレターを書き、自分の名前や住所は書かずに郵便受けに入れてきたりする。なお、高校生になってからは手口がエスカレートし、窓ガラスを割って侵入し、タンスの中から盗んだりもするようになる。そして、Aは、盗んできたブラジャーなどを自室で身体につけて鏡を見て楽しんだり、大きな箱の中にきちんとしまっておいたりする(母親からの報告によれば、Aの部屋は、親でもびっくりする程に整理されており、その箱の中には、使い古した電池、美しいチョコレートの箱、中学生時代に使った体操シャツや水着、などがきちんとしまわれていたとのことである。また、母親は、「Aは、近所はもちろん家でも無口で、父親とはほとんど口をきかないし、私とも必要なこと以外は話さないため、事件の発覚が遅れてしまった」と述べたりしている)

##### (5) 臨床像および心理テストの結果

担任と母親につれられて来所する。背が高くやせたおとなしい男の子。ひげなどは一人前に生えているが男らしさが感じられない。事件のことや無期停学中であること等についてテスターから質問されると、躊躇することなく小声で応答する。「事件が友達に知れたら学校に行きにくい？」とたずねられても、「別にどうもない」と淡々と答える。罪悪感や羞恥の感情や戸惑いの気持ちなどが全然伝わってこない。テストには素直に応じる。

人物画(図1)では、学生服を着た男の子を中央に画用紙全体を使ってステレオタイプに描く。開かれた大きな両足、眉毛のない顔、等が印象的であり、容貌からはすこし奇異なイメージを連想させる。

バウムテスト(図2)では、イチジクの実を撫でる

ような感じで手のような形をした葉をいっぱい描き刀剣枝をカムフラージュしていること、長い幹、地平線で幹がスッパリと切断されており根が全然ないこと（地下の世界が空白であること）、等が特徴的である。女性的な木であり、ペニス（睾丸）を撫でる手のようであり、マスタベーションを連想させると同時に、乳房を撫でる手を連想させもする。

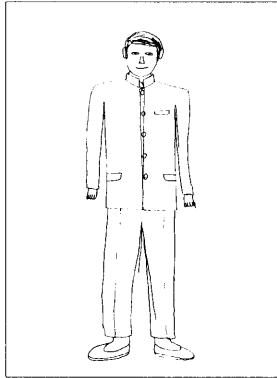


図1



図2

#### （6）精神科医の所見

「女になりたい。最近になって、女になっていくように思う」といった気分が潜在的にうかがわれるところから、女性化念慮（希求）が時間的に先行していると思われる。性対象および同一化希求の対象の両面をもったものとして、胸（ブラジャー）があらわれていると思われる、現時点では過渡的な段階にとどまっている。「オナニーは中2の時に自分でおぼえた」とのことであるが、ヌード写真や平凡パンチ等は見たことがないとのことである。また、男で好きな人もいない様子である。

### Ⅲ. 事例の経過（X年11月～X+1年12月）

さて、このような経過で心理療法を開始することになったが、Aは、会話量も少なく、感情の起伏の乏しい話し方であった。そのため、Aの内的世界の理解をスムーズにするために箱庭療法を併用することにした。だが、カウンセリングと同様に、箱庭においても、治療の流れが捉えにくい作品が多かったといえる。

そこで、カウンセリングの中で話し合われた主な話題や、セラピストにとって興味深く思われた箱庭作品をピックアップしながらその概要を報告することにした。（なお、心理療法は隔週に実施し、29回で一応終結した）

#### （1）カウンセリングの経過

開始当初のAは、自分から話すことはほとんどなく、セラピストの質問に簡単に答える程度であり、感情表現も非常に乏しい状態であった。そして、応答する内容も貧困であり、事件について聞かれると、「盗ってきたものを身体につけて鏡で見て楽しんでい

た」「裁判所に呼び出されている。少し不安だ」「早く登校しないと落第になりそうで心配だ」等と述べたりするが、女装の楽しみの実感、盗みに対する罪悪感、将来に対する不安、等がセラピストにはほとんど伝わってこないのがであった。また、女装に対するAのイメージを確かめようと、ガールフレンドの話題を取り出しても、Aは、「ガールフレンドはいない」と淡々と答えるだけであった。またAが持参してセラピストに見せてくれた反省帳（謹慎中に学校から書くように指示された日記）には、「お父さん、お母さんに申し訳ないことをしたので死にたい。家出したい」等と書かれているのだが、Aの表情からはそのような気持ちをもっていることがセラピストには理解しにくい状態であった。

だが、学校の担任や警察関係者の配慮により、事件が近所の人々や友達に知られることなく、3学期から再登校の許可が与えられると、Aは、「月2回、保護司さんの所に行かねばならない」等と述べるが、少し安堵の表情をみせだすようになる。

そして、カウンセリングを開始して8カ月目頃からは、表情もだいぶ豊かになり時々笑顔もみられるようになり、頭の髪を左右にきちんと分けだす等さっぱりした感じになり、明るさとスマートさが出てくる。そしてAは、自分から、「最近、男友達3人に誘われて初めてボウリングに行った」「試験はなんとか出来た。どうやら進級できそうだ」「春休みから家を改築しだしたので僕も手伝っている。家の畑でイチゴやスイカが取れる」等と話し出すようになる。しかし、その反面、おかしな夢をみたことや気になる予言の本（『ノストラダムスの大予言』）等について話し出し、不安感を訴えたりする。Aは、まず夢について報告し、「2階から飛び降りたのにけがしなかった……不思議な気分だった」「外国の飛行機が爆撃しながら僕の家の方に近づいてきた……僕は家の中にいた……そこで目がさめた」と言う。そこで爆撃の夢の感想を求めると、Aは、「まだ僕の家から離れていたものでそれほど恐くなかった」と補足する。一方、Aは、「ノストラダムスの大予言を読んだら、『1999年7月に人類は滅亡する。その後、生き残った人間たちは、共食いしたり、胴や頭が2つある奇怪な人間が生まれる』と書いてあった……最近急に寒くなった。なにか地球が段々冷えていく気がする」と述べたり、「この前テレビで妖怪が作用して枕を逆さまにするというのを見た……夜中に気がついたら僕の身体の向きが逆さまになっていた。枕が足のところにきていた。変な気分だった」と述べたりする。

だがAは、高2の2学期になると自信を持ち出すようになり、夏休み中にバイトをしたことやバイクの免許をとったことを報告し、「自分で家の近くを歩いて探し、守衛さんに売り込んでアルバイト先を見つ

けた。7万円貯めるまで頑張る」と述べたりする。また、Aは、修学旅行について報告し、「天気が良くて非常に楽しかった。夜、友達とエロ漫画を読んだり、猥談したりした」「船の中で一緒になったよその女子高校生と一緒に写真を撮った」「道を歩くかわい子ちゃんに、バスの窓から手を振ったり、声をかけたりした」等と、うれしそうに述べる。そして、Aは、「もうあんなことは二度としない自信がある」と述べ、終結に同意する。（なお、終結に際して母親は、「お陰様で無事に事件を乗り切ることが出来ました」「Aは少しやる気が出てき、成績も良くなりました」等と、セラピストに挨拶したりする）

## （2）箱庭療法の経過

Aは、29回のカウンセリングと併行してほぼ毎回、箱庭をつくったが、テーマに連続性が乏しいため、その内容を深く理解することは困難であった。しかし、Aの作り方の特徴としては、箱を2個ひっつけて使うことが多いこと、方向性の明確なシンプルな作品が多いこと、等があげられる。また、箱庭のテーマとしては、戦いの場面が少ないこと、逆に、事故場面（交通事故や飛行機の墜落など）が多く、パトカーや消防車がよく登場すること、道路工事のテーマが多いこと、等が特徴としてあげられる。それ故、アグレッションや性的なエネルギーが深く抑圧され分離されていること、そして、自我が弱いために見えざる力によって世界が混乱させられやすいこと、超自我が弱いこと、等をうかがい知ることができると思われる。

第1回。箱を2個ひっつけて使い、左上から右下にむかつて砂を盛り上げて道路を作る。そして、左上の端に踏切を置き、道路を横切って車を走らせる。道路にはいろんな車が走っており今のところ事故はないが、オートバイに乗った一団（4名）が接近して走っているのが気にかかる。道端にはガソリンスタンドや消防署があり、道路下（土手）では工事がおこなわれている。Aは、つくった箱庭に説明を加えることはあまりないが、これまでのアクティングアウトをなんとかおさめようという努力と治療へのモチベーションと不安がうかがわれる感じである。

第2回。中央に城を置き、そのまわりに木を置き次に堀を作る。だが、堀には橋がかかっておらず、人は一人も登場しない。寂しい印象をあたえる。

第3回（図3）。初めて兵士を登場させるが、「日本軍（左の箱）と敵国（右の箱）はお互いに離れた所で作戦をねっている」とのことである。遠く離れてはいるが兵士が登場したのはいい感じをあたえる。

第7～9回。ミキサー車と乗用車がスピードを出し過ぎて正面衝突したり、飛行機が草原に墜落するところを作り、救急車やパトカーを出動させる。その後は、道路にパトカーを待機させてスピード違反（制限速度50キロ）を取り締まらせる。制限速度を守りなが

ら治療をすすめていくことが大切と思われるが、パトカーが効力を発揮し出したのはいい感じをあたえる。

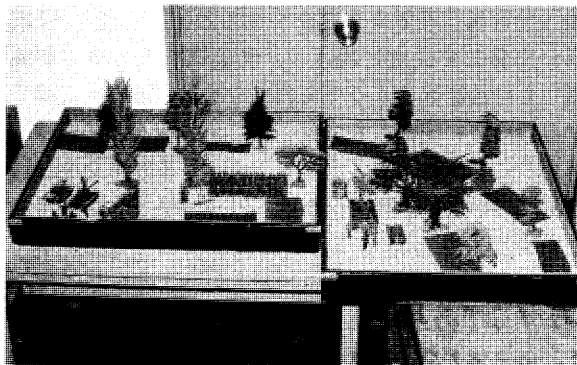


図3

第10回（図4）。左上からペニスのような形に砂を盛って港を作り、先端に灯台を置き、「貨物船が出発するところ」と言う。右上にも砂を盛り、「基地」と言って潜水艦や飛行機を置く。貨物船は灯台の光を頼りに無事に航海できるのだろうか？ともかく、出発した貨物船の無事の航海を祈りたい。

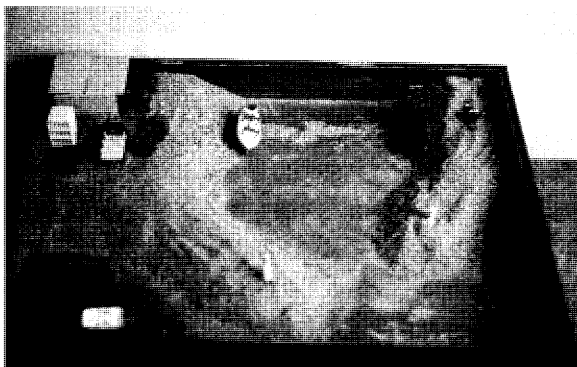


図4

第12回（図5）。中央に池を作り、左上と右横に神社を置き、四角い石を敷いて道を作る。池の中央に大きな石を置く。完成すると、Aは、「のどかな感じ」と言う。セラピストも心の安らぎを覚える。Aの心の中にやっと中心が出来あがった感じをうける。



図5

第13～14回。 ライオンに追われて右上に向かって逃げる象たち（大4，小2）をつくり，「子象は1匹捕まってライオンに食われるだろう」とAは言う。次には，飛行場に怪獣が1匹出現するところを作り，「戦車が出動して怪獣と戦うが，管制塔も飛行機（旅客機）も給油車もみんなやられてしまうだろう」と補足する。出立の困難さを痛感させる。

第15～17回。 ドライブイン，ガソリンスタンド（給油），道路の舗装工事，金持ちの家，等を作る。平和な町や安全な道路をつくるためにはまだまだエネルギーの補給が必要と思われる。

第18回。 中央に城を置きその周囲に深い堀をつくるが，第2回の作品と異なり，今回は橋をかける。そして，右下に番人の家を置く。橋がかかったのはいい感じだが，城に訪れる人が登場していないのが寂しい感じをあたえる。

第19～25回。 公園や野球場（ただし人は登場しない）等の平和な風景をつくるかと思うと，次には，家を踏み潰そうとする怪獣，岩にぶつかって転覆した貨物船（第10回に使ったのと同じ船），自動車レースで転倒した車，崖から落ちて下の方の民家に激突しそうなガソリンタンク車，等をつくる。しかし，飛行機や救急車や船が救出にむかっており，「助かる」とAは言う。平和な町を建設することや安全な航海の難しさが痛感させられる感じである。

第26～29回。 平和な町の風景が定着し，塀で守られた高速道路，ゴミ焼却所へゴミを運ぶ清掃車，スピード違反を見張るパトカーと警察署，道路の舗装工事，等をつくる。第27回には，初めて子どもを登場させて公園で遊ぶところをつくる。全般的にみてやっと平和な町がなんとか出来上がった感じである。

#### Ⅳ. 心理テストの結果

さて，これまでのところでは心理療法の概要について報告したのであるが，次には，この期間中に実施した心理テストの概略を述べてみることにしよう。なお，実施日は以下のごとくである。（表1参照）。

（1）人物画。計5回実施した。第1回（図1）の直立不動の学生の絵と比較すると，回を重ねるごとに動きのある人物（すべて男性）が描かれるようになり，顔の表現にもバラエティが出てくる。（しかし，逆に，顔に面をつけていたり，後頭部が描かれていたり，組み合っているために顔が見えなかったりもしており，健康な顔を描けるようになるためにはまだまだ心理療法が必要な感じである）。地面に削岩機で穴をあける工事人（第2回），相撲をとり組み合う2人の力士（第3回），逆立ちして背をむける体操選手（第4回，図6），サインを出すキャッチャー（第5回），を描く。全般的に肉体（男性的な力）を強調する男性の絵が多く，パワーへのあこがれと同時にナルシスティクな面をあらわしている印象をあたえる。

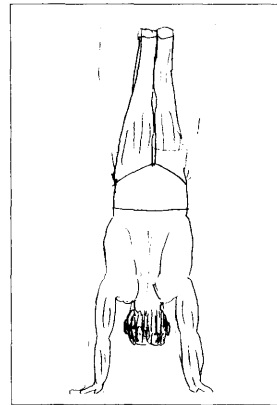


図6

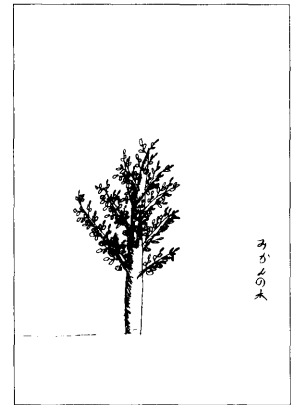


図7

（2）バウムテスト。 計6回実施した。第2回にはミカンの木（図7）を描く。幹の左側に描かれた陰影，女性的な小さな葉，地平線の下に薄く線が描かれていること，等が特徴的であり，女性性器を連想させる。第4回からは地平線が消えてしまい，幹下縁立の描き方となる。全般的傾向としては，回がすすむにつれて，幹が太く高くなり右へと傾斜しだす傾向がみられ，力強さが出てき，セクシャルなイメージを連想させることが減少してきている感じである。

	インテーク時	2カ月後	4カ月後	10カ月後	12カ月後	終結時
人物画	第1回		第2回	第3回	第4回	第5回
バウム	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
TAT	第1回					第2回

表1 心理テストの実施日

(3) T A T (ハーバード版)

紙数の制限のため、内容分析の観点から興味深く思われる8枚の図版についてのみ報告することにしよう。なお、タイムは初発時間と所要時間である。

[3 B M図版]

「なにか嫌なことがあって泣いている……15～16歳ぐらいの女の子……勉強のことで叱られた……それからは真面目に勉強するようになる」(第1回: 20", 2' 12")

「ピストルで頭を撃って自殺した……生活に困っているから……中3の女の子……お父さんとお母さんがいなくて……1年ほど前に交通事故にあった」(第2回: 10", 2' 20")

[4 図版]

「男の人がどこかへ行くのを止めている……恋人たち……男の人に違う恋人ができてそこへ行こうとしている……可愛らしさがないので、こっちの女の子がイヤになった……魅力がないので、男の人は行ってしまう」(第1回: 29", 3' 50")

「男の人が戦争に行こうとしているのを止めている……夫婦……死なれるとかなんから止めている……男の人はそのまま行ってしまう……女の人は、戦争から戻ってくるのを待つ……男の人は功績をたてて帰ってくる……男の人は自分から戦争に行こうと志願した」(第2回: 20", 3' 11")

[7 B M図版]

「会社で上司(左)と部下(右)がしゃべっている……なにかをやらそうとしている……陰に隠れてなにか悪いこと……密輸を企んでいる……失敗し部下は上司に殺される」(第1回: 11", 2' 26")

「学者たちが会議をしているところ……地震がたくさん起こるので、原因を追求している……いろんな説があるが、原因はわからない……結局、会議はなんにもならない……大地震は今のところ起こっていないが、地震はまだまだ続く」(第2回: 25", 2' 20")

[10図版]

「男の人(左)が女の人(右)のおでこのところにキスしている……夫婦……このあとベッドでなにかする(苦笑)……<なにかって?>……寝るの……」(第1回: 18", 2' 34")

「キスしているところ……男(左)と女(右)は恋人たち……車でホテルに出かける……そのへん見て回ったりしてから、部屋に戻って来て食事したりする……その後、二人は結婚して普通にうまくいく」(第2回: 10", 3' 51")

[12 M図版]

「催眠術かけている……寝ている人が催眠術にかかったまま起きて、サルと真似とかイヌと真似とかするもう一度寝かされて目を覚まされる……なにかのショー」(第1回: 5", 1' 34")

「催眠術かけている……父親が自分の息子にかけている……サーカスみたい……息子にいろんなことやらせる……刀と刀を離して立てて、その上に息子を寝させる……それから術をといて元に戻す……危険はない」(第2回: 6", 2' 15")

[13 M F図版]

「朝、男の人が会社に出かけるところ……前の日の晩遅くまで起きていた……女の人と遊んでいた……恋人どうし……女の人はまだ寝ている……男の人が出かけてから起きて会社へ行く……ここは男の人のアパートで、二人は別々の会社に勤めている……<どんなことして遊んでいたの?>……一緒に寝たりしていた……変な気持ち……こんなことしていいのかな……その後、結婚するがうまくいかなくなる」(第1回: 18", 5' 03")

「男の人が起きて、眠そうな顔してこれから会社に行こうとしている……会社へ出かけてから、この女の子が起きてくる……ご飯を食べて、働いている所へ出かける……夫婦……仲は普通……<何故、女の人は裸なの?>……一緒に寝ていたから」(第2回: 12", 1' 59")

[15図版]

「お墓……墓参りに行かへった……花を供えている……親の墓に子どもが参っている……50歳ぐらいの男の人が参っている……父親は交通事故で死んだ……終わると自分の家に帰る」(第1回: 8", 2', 20")

「墓場の中で、男の年とった人が女の格好して立っている……なんとなく立っている……楽しんでいる……自分の服に着替えて帰る……<どうして女の格好しているの?>……こういう趣味がある……独り者……まわりに女の人がないから、女の人に憧れているの」(第2回: 15", 5' 12")

[16図版]

「暴力団の人と市民が喧嘩した……暴力団の人が、25歳ぐらいの男の人にぶつかって、『あやまれ!』と言う……包丁みたいなものを取り出して、市民の腹を突き刺す……市民は大けがをする……命はなんとか助かるが恨む……暴力団の人は逃げるがすぐ警察に捕まる」(第1回: 25", 2' 58")

「大きなビル……ある人が50階建てのビルを建てているところ……だいたいの形が出来た時に地震が起こって崩れてしまう……また造るが、完成する前になって……もう使えるような段階になって、火事でみんな燃えてしまう……この人は運が悪いし、商売が下手だし、何度いろんなことをやろうとしてもみんな失敗してしまう……結局、お金がないのでそのままほっておく……それを別の人が買い取って、中をまた綺麗にして住めるようにして、会社とかいろいろ入れる……今度はうまくいく」(第2回: 13", 4' 36")

なお、その他の無興味深いテーマとしては、「親に勉強などを強制されるが出来ずに叱られる男の子」(1図版)、「一人息子を事故で失う母」(6BM図版)、「殺されてバラバラにされる探偵」(8BM図版)、等があげられる。だが、それ以上に印象的だったのは、Aが、「キスしている……………ベットで寝ている」「女の格好して立っている」等と述べる時、苦笑したりはするものの、ほとんど感情がともなっていないことや、「結婚前に平気でホテルに行く恋人たち」等にみられるように、常識的な判断力の欠如や罪悪感の稀薄さがうかがわれることであった。

#### (4) 家族のバウムテスト

さて、これまでのところではAに実施した心理テストの結果の要点を述べてきたのであるが、最後に、Aの家族に実施したバウムテストの結果を示すことにしよう。(なお、実施日はバラバラであり、母親はAのインテーク時に、父親と妹はAの心理療法開始2カ月後に実施した)

母親のバウム(図8)の特徴としては、画用紙の下半分に小さな木が描かれていること、地平線が欠落しているのに根が長く描かれていること、幹の先端が開かれたままであること、一線枝に葉と実がついており左側の枝が下を向いていること、等があげられる。全般的に弱々しい木であり、臨床像とは正反対の感じであり、生に対する回避や傍観、そして退縮的傾向がうかがわれる。

父親のバウム(図9)の特徴としては、幹が短いのに比べて枝が非常に長いこと、枝が大きく広がり画用紙からはみ出していることや枝の先が開かれたままであること、枝のわりに葉が少なく実(桃)が強調して描かれていること、等があげられる。臨床像(生気を吸い尽くされたような男性)とは正反対の感じであり、大きな木であるが、バランスが悪く不安定であり、衝動に対するコントロールの悪さがうかがえる。

妹のバウム(図10)の特徴としては、母親のバウムとは逆に画用紙の上半分に、「毛もくじらの木」と

いった感じの柿の木を描いていること、幹や枝の表面に多くのスジが描かれ、枝には葉や実がぎっしりと描かれていること、地平線が欠落していること、枝の先端が開かれているが葉をつけることによりカムフラージュしていること、等があげられる。傷つきやすさや葛藤をもちながらも、それらから目をそらし外界になんとか適応しようとしている姿が感じられる。

## V. 考察

### (1) Aの自我構造の特徴について

さて、これまでのところで述べてきた心理療法の経過や心理テストの結果などを振り返りながら、何故Aが女性の下着(特にブラジャー)を盗むようになったかについて考察してみることにしたいが、その前に、Aの自我の構造とその特徴について考えてみることにしよう。

というのは、Aにとってより問題なのは、下着を盗むという行動よりも、その行動を生み出す背後に隠れている自我の弱さや超自我の形成不全などにあると思われるからである。つまり、常識的な判断力が機能せず安易に衝動に押し流されてしまい、その結果に対しても適切な感情が起こらず罪悪感なども生じないことである。

これらの点は、Aが反省文の中で、「犯行した時の僕は、警察というものの存在を忘れていた。泥棒すれば被害者が、当然警察に届け出るということを忘れていた」等と書いていることに明確に示されている。また、Aが日記の中に、「お父さん、お母さんに申し訳ないことをしたので死にたい……………家出したい」等と書いているが、セラピストからその感情の明確化を求められても、このような切迫した気持ちをもっていることが全然伝わってこないことにも示されている。

さらに、Aは、TATの10図版や13MF図版などのセクシャルな反応を生じさせやすい図版に対しても、「このあとベッドでなにかする」と述べて少し照れ笑いしたり、「変な気持ち……………こんなことしていいの

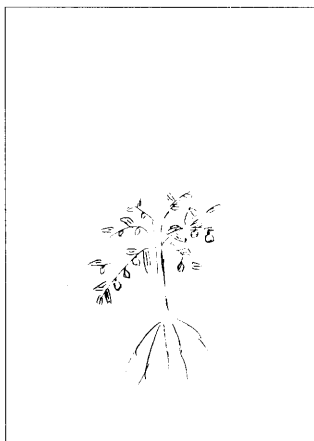


図8

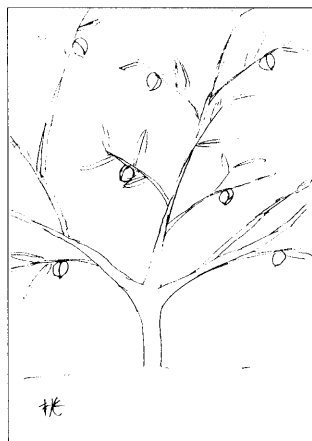


図9

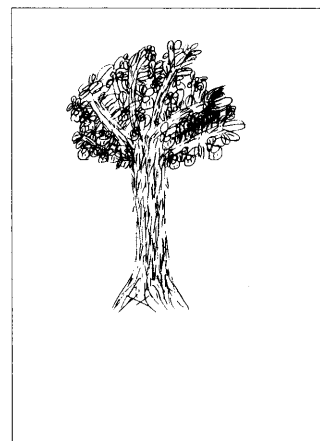


図10

かな」と述べたりし、一応常識的な感情反応を示しているようにみせながら、「恋人たちが結婚前に平気でホテルに行く」ことに対してなんら批判することなく安易に受け入れたりしている。つまり、性的衝動に対するAの自我の弱さを示していると言える。

しかし、それ以上にセラピストに不可解な感じをいだかせたのは、カウンセリングにおいて特に突っ込んだ会話、つまり、Aの無意識に切り込むような会話をしていないのに、その直後の箱庭で事故などのテーマがよく出現したり、一般的には些細なことと思われるような外的な出来事（例えば、気候の変化やテレビ番組など）によって箱庭が影響を受けているらしいことであった。

それ故、セラピストは、Aのアグレッションや性的衝動が分離されて深いところに沈み込んでいること、そして時折（安易に）Aの弱い自我防衛を突き破って噴き出してくるという印象を強く受けたのであった。そして、これらの点は、バウムテストにおいて、地平線（地面）によって地下の世界が切断されて空白になっていることや、TATにおいて、地震や火事といった人間を超える力によって不幸が訪れたり、善良な市民が突然暴力団に刺されるといった不慮の事故や交通事故などが多くみられることにもあらわれていると思われるのである。

## （2）Aのもつ家族イメージについて

では、Aのこのような自我構造の特徴はどのようにして生じてきたのであろうか。これらの点を考えるには、Aが家族に関して述べた発言や生育史に関する母親からの報告が参考になると思われるが、残念ながらAは、「お母さんは口うるさい」等と述べる程度で、ほとんど述べていないし、一方、母親も「Aは乳幼児期は病気がちだった」「Aは友達がほとんどなかった」と述べる程度である。そこで、これらの乏しい情報から推測すると、Aは温かい母子関係を体験しなかったし、父親や妹とも親密な関係をもつことが出来ず、そのため喜怒哀楽の感情も育たず、無感動な孤独な日々を送ってきたと思われる。そのため、思春期をむかえたAは、衝動の突然の出現に適切に対応することが出来ずアクティングアウトしたものと思われる。

しかし、一方Aは、TATの中で、「自分の息子に催眠術をかけて2本の刀の先に寝かせる父親」（12M図版）や、「父親の墓参りに行った50歳ぐらいの息子が、自分のまわりに女の人がないから女の人に憧れて、女装して立っている」（15図版）、「交通事故で死亡した父母のあとを追って自殺する娘」（3BM図版）等といった話をつくり、父母に対する無意識的なアグレッションや父親から去勢される不安などを表現していると思われるが、これらは一体どういうわけであらうか。一見すると稀薄でエディプス的な葛藤など生じていないような親子関係の中にあり、また、生氣

を吸い取られたような男性性のまったく消滅したような父親をもちながら、このような不安や敵意が潜んでいるのはどういうわけであらうか。

この点を考えるにはAが見たおかしな夢や予言書に対するAの反応が参考になるであろう。つまり、Aが、「夜中に気がついたら身体の向きが逆さになり、枕が足のところにきていた」「人類は滅亡する………共食いしたり………奇怪な人間が生まれる」等と述べていることから推測すると、エディプス葛藤から生じる去勢不安というよりは、「自分の全存在が喪失する」あるいは「奇形人間化される」といった恐怖感がベースにあると思われるのである。すなわち、乳幼児期に温かく保護される体験がなかったために、父母に対するアグレッションが生じ、それが沈殿してこのような不安に変形したと思われるのである。

## （3）カウンセリングおよび箱庭療法の意味について

では、次に、このようなAの家族関係や弱い自我がカウンセリングや箱庭療法によってどのように変化したかをみてみることにしよう。まず、家族関係における変化としては、事件後、母親がパートをやめてAに目を向けだし親身にかかわり出したこと、家の改築や畑仕事などをAも参加して家族全員でやりだすようになったこと、妹が大人っぽくなったこと、等があげられ、稀薄な親子関係などが少し改善されだしたといえる。そして、A自身も表情が豊かになり、明るさとスマートさも出てき、バイトをしたりバイクの免許を取るなどして自信と積極性をもち出したといえる。また、Aは、クラスメイト（男友達3人）と一緒に初めてボウリングに行ったりもするようになり、異性に対しても、「修学旅行の時、夜、友達とエロ漫画を読んだり、猥談したりした」「道を歩くかわいい子ちゃんに、バスの窓から手を振ったり声をかけたりした」等と述べているように、年齢相応の関心をもつようになってきたといえる。

一方、カウンセリングにおいても、Aは、セラピストが日常的な会話を積極的に取り上げることにより（Aの無意識に軽率に踏み込まないようにかかわりを続ける中で）、自分の内的世界に少しずつ目を向けだし意識化するようになったと思われる。そして、Aは箱庭において、城と堀に橋を架けることが出来るようになったり、のどかな神社の風景を完成する中で、自分の心の中に拠り所をつくることが出来るようになったと思われる。そして、その拠り所を出発点として、Aは、事故（交通事故や墜落事故）や火事や地震の多発する世界にパトカーや救急車を出動させることにより、回復の兆しを見せ始め、道路を舗装したり、警察署を設置したり、ゴミ焼却場を置いたりすることにより平和な町づくりを始め、最後には公園をつくり、初めてたくさんの人間を登場させるようになったと言える（しかし、「飛行場に突然あらわれて破壊する怪獣」

の箱庭に見られるように、アグレッションに対するAのコントロール力はまだまだ未発達のまま残ったと思われる。

このようにAは、箱庭をつくる中で、超自我を少しづつ育て、突然噴き出してくる激しい衝動に対してなんとか適切に関われるようになり、ペニスのような形をした港の灯台の光に照らされて出立を始めたと思われるのである。だが、その行き先はまだまだ多難であると思われるし、実際、出発した貨物船は岩にぶつかって転覆したりしているのである。(また、男性性の芽生えを感じさせるようなペニスの形をした港の反対側に、基地をもつ港が置かれているのも気にかかる点である)。

しかし、ともかく約1年間の心理療法により、Aがアクティングアウトから立ち直り、再出発するための基盤を造ったことは明らかであろう。この点は、TATの結果などにもうかがうことができ、「地震や火事で破壊されたビルを買い取って改築する人」(10図版)や「戦争に自分から志願して行き功績をたてて帰ってくる男」(4図版)等が印象的である。

#### (4) 下着盗みの心理的メカニズムについて

では、最後に、Aの主訴となっている女性の下着(特にブラジャー)を盗むことの心理的メカニズムについて考えてみることにしよう。Aは、「盗んできたブラジャーを身体に着けて鏡を見て楽しんだ」と説明しているが、その実際やその時のAの感情について質問しても的確な応答が返ってこないため、セラピストにはピタッと分かりにくいのが現状であった。また、セラピストの目には、Aに同性愛傾向が顕著にあるとは思えなかったし、実際、Aがセラピストに対してそのような感情を向けてくること(同性愛感情をセラピストに転移すること)はなかったと思われ、むしろ淡泊な対人関係しか持てなかったのが現状であると思われる。それ故、Aは、フェティシズムや同性愛傾向によって女性の下着を盗むことになったと言うよりも、性的衝動や異性に関する欲求が屈曲した形で爆発した過渡的なものと考えるのが一応妥当ではないかと思われる。そして、実際、盗癖は予想以上に早くおさまリ再発もおこらなかったのがあった(だが、前述したように、Aの深層には、去勢不安や女性になりたいという気持ちなどもうかがわれ、それ故、女装することにより、これまでに得られなかった母子の一体感や融合体験を強く希求していたと思われるのである)

#### フォローアップ(11年後)

その後、Aは、無事に高校を卒業して会社に勤めるようになり、今年で10年目を迎えるが元気に働いているとのことである。だが、「ガールフレンドができた」とか「結婚しました」といった風の便りがまだ届いてないのが少し気がかりである。

#### 【参考文献】

- 福島 章 編(1973): 犯罪の心理学 至文堂 現代のエスプリ70
- 藤川洋子・梅下節瑠・六浦祐樹(2002): 性非行にみるアスペルガー傷害 家庭裁判所調査官の立場から 児童青年精神医学とその近接領域43 (3), 280-289
- 針間克己(2001): 性非行少年の心理療法 有斐閣
- 河合隼雄編(1969): 箱庭療法入門 誠信書房
- 河合隼雄(1975): 盗みの意味 少年補導20巻3号 13-15 <下着盗少年と「変態性欲」の無関係>
- 河合隼雄(1992): 子どもと学校 岩波書店 200-222 第IV章第2節 性の理解と教育 <性非行、性の破壊性、他>
- 河合隼雄(1992): こころの処方箋 新潮社 26-29 <「理解ある親」をもつ子はたまらない>
- 木村 駿(1964): TAT診断法入門 誠信書房
- 松元泰儀(1976): 抑圧された母固着から女性の下着を盗み自慰行為を繰り返した少年 佐治守夫編 青少年事例集 東京法令 906-907
- 文部科学省(2001): 思春期の子どもと向き合うために ぎょうせい 89-90 <事例9 性的興味から更衣室に侵入した17歳男子>
- 田川二照(1999): 下着を盗んで補導された 福村出版 坂野雄二編 スクールカウンセラー事例ファイル⑥性 116-120
- 坪内順子(1984): TATアナリシス 垣内出版
- 十一元三(2002): 性非行にみるアスペルガー傷害: 認知機能検査所見と性非行の特異性との関連 児童青年精神医学とその近接領域43 (3), 290-300
- 渡辺弘太郎(2003): 下着盗を繰り返す少年の事例 日本犯罪心理学会第41回大会論文集 42-43
- 湯川進太郎・泊真児(1999): 性的情報接触と性犯罪行為可能性 ― 性犯罪神話を媒介として ― 犯罪心理学研究40 (2) 15-28